

2018 年 (平成 30 年)

新春号

[第 27 号]

発行 東京鉄構工業協同組合  
 〒 104 東京都中央区八丁堀 3-9-5 KSビル6階  
 - 0032 TEL : 03 (5566) 1595  
 FAX : 03 (5566) 1597

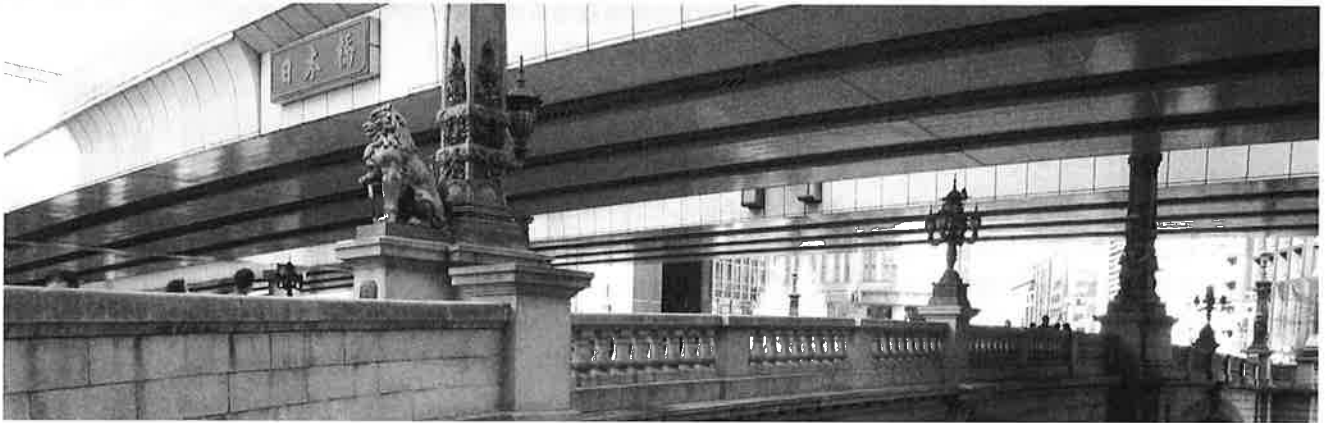
Tokyo  
 Steel-rib  
 Fabricating  
 Association

Report

東構協

<http://www.tsfa.jp/>

東京・中央区「日本橋」



「希 望」

理事長 飯田 歳樹

東構協・東構協協力会のみなさま、  
 新年あけましておめでとうございます。

我が国の経済は日銀の短観の発表では、大企業がけん引役となりリーマン・ショック後で最も高い景況感で推移しているとのこと。一方、人手不足などを背景に先行きには慎重な見方をする企業が多いとのこと。

我々鉄骨業界においてもここ数年 500 万トンの需要で推移しており繁忙期を迎えております。公共事業やオリンピック・パラリンピック関連の需要が多く見込まれ潤沢に推移しておりますが、地域性などの影響により好調不調の二極化の動きが出てきていると思われます。全体的に見ると景況感の水準は高く見込まれていくのでしょうか。

ただ先行きに慎重な見方をすべきで、北朝鮮のミサイル問題などを背景とした日本に与えるリスク、大企業による隠ぺい工作による信用の失墜、九州北部豪雨などの自然災害、近い将来来るであろう大都会への大震災や人手不足が業績を圧迫する懸念が根強いこと、また、2020 年以降の需要の落ち込み、好景気に備え人手に代わる機械導入をしたは良いものの、その後のメンテナンスによる費用の発生など多くの課題があります。

我が東構協では BCP 対策の一環として、また来るべき首都直下型地震の危機管理として、東京ベイ 3 (東京鉄構工業協同組合、神奈川県鉄構業協同組合、千葉県鉄骨工業会) を立上げ相互活動を継続しておりますが、昨年よ

り関東全 10 組合 (茨城、栃木、群馬、山梨、埼玉、新潟、長野) に拡大し連携していくこととなりました。我々鉄骨業界が少しでも社会貢献できる一助になればと考えております。

さて、今年「戌年」。全国で家庭でペットを飼っている人の割合が 37% で、そのうちの 64% が犬を飼っているとされています。癒しになるとか、子供の情操教育になるとか理由は様々ですが、犬は安産のお守り子だくさんの象徴でもあります。この年に組合員のみなさまが、たくさんの成果を上げ繁栄することをお祈り申し上げます。

東構協ではここ数年、新理事、新社長が誕生しております。今後の組合活動、会社経営を行いながら、ファブリーケーターの繁栄と持続を第一目標とし、全国の支部との交流会を行いつつ、各県との対話、交流を持ちお互いを理解して、直面している業界の問題、各県との格差等、昨年同様に腹を割って話し合い、組合・協力会と一緒に頑張っていきたいと考えています。

(飯田製作所社長)

## 組合理事役員

年頭のあいさつ

### 「句碑を訪ねて」



副理事長・相談役  
総務・広報委員長

池田 英敏

恒例のOB会秋の旅行。今年は一期上の先輩が幹事役となり、北陸加賀温泉郷山中温泉・黒部宇奈月温泉トロッコ電車の旅に5名での参加となった。

北陸フリーキップにて東京駅を、2時間強の時間をかけて初めての北陸新幹線で金沢入りである。昼食は車中にて東京駅で買い求めた多少値の張った弁当を食す。これがなんと各老舗の旨いものが、程よく入りとても美味しく頂いた。まずは旅へのよさを、噛みしめた次第。

金沢は多少寒く兼六園を見学する。公園では加賀友禅大使のタスキをかけた和服姿の美しい女性群に遭遇し、思いもかけない一時を楽しみ、目の保養となる。公園では雪吊り縄の松の緑が池の水面に映る光景が、紅葉の彩る風景と対比して、一服の絵画のようである。

次の目的地、加賀温泉郷に迎え山中

温泉の溪谷近くに宿をとる。ここは奥の細道ゆかりの名所史跡があるという。翌日の早朝に昨夜から降る水雨の中、宿で傘を借用し、温泉街の溪谷を散策する。時間の都合で芭蕉の資料館に寄ることが、出来なかったのがとても心残り。折からの雨の増水のため、流れの速い大聖寺川に対岸の紅葉した木々の葉がハラハラと落ちる様は何とも言えない風情を醸し出している。滑らないように足下に気をつけながら、歩くこと10分。あやとり橋の先の道明ヶ淵で芭蕉の句碑を発見する。「山中や菊は手折らじ湯のにほい」。どのように詠まれたか分からないが、まだ折られていない菊の匂いが、存在感を示すように湯の匂いと競い合って溪谷に漂っているようだ。――と自己解釈しつつ川沿いを歩く。

「川音やうき世隣のほととぎす」。自笑の句碑がみえた。川のせせらぎの音が、ほととぎすの鳴声をかき消してしまふ。この世の儚さを謳ったものと解釈する。濡れた玉石を踏みしめながら、こおろぎ橋に辿りつく。「時と季節のせせらぎにこおろぎ橋はいつも優しい」。佐々木守の歌を詠む。ここに訪れる旅人が四季ごとに見るにつけても、何時も自分に違った景色で迎えてくれる。心を豊かにしてくれる。――と解釈する。

まだまだ数多くの句碑があるが、ほんの一部を紹介して遊歩道を後にする。最後に駄作の一句を披露して終わりとします。

「防寒着をまといて足湯のカップ酒」。宇奈月温泉郷にて。

本年は皆様にとって良い年でありますようにお祈り申し上げます。今年もよろしくお願いいたします。

(池田鉄工会長)

### 「奢ることなかれ」



副理事長  
経営近代化委員長  
武田 忠義

鉄骨需要は、昨年後半から地域や規模に関係なく、盛り上がりを見せてきている。このペースで推移すれば今年には関係者の多くが指摘してきた「近年にないピークを迎える」が現実のものとなる。周辺からは「バブル期に突入」「単価はファブの言いなり」「宙に浮く物件が増える」という声さえ聞かれるようになった。

業界にとっては収益改善を図る一隅のチャンスを迎え、喜ばしい年になる。ただ、浮かれてばかりはいられない。かつて鉄骨需要は1200万トンを超え、全構協の構成員も4200社を誇った時期がある。しかし今や需要は約500万トン、構成員数も約2200社といずれもほぼ半減し、市場から多くの同業者が姿を消した。そうした業界の経緯を検証すれば、需給の均衡と

### 管理技術者試験準備講習会

1級 128名、2級 135名が受講  
講師は羽石・大塚氏が担当

昨年9月30日、都内で鉄骨製作管理技術者講習会を開催した。

同講習会は10月14日に全国一斉に実施される本試験のための準備講習会で、当日は関東・甲信越の鉄構ファ

ブを中心に受講。受講人数の関係で1級が「連合会館」、2級が「ベルサール神田」に分けて行われた。

講師は、鉄骨製作管理技術者1級が羽石良一氏（建築鉄骨構造技術支援協会常務理事）、同2級は大塚英郎氏（大林組東京本店建築事業部品質管理部鉄骨品質管理課課長）が担当。午前は試験問題の概要などを解説、午後からは

模擬試験を実施した。



その競争の波に翻弄された歴史であることが歴然とする。

仕事量が減少すれば、業界内部に叩き合いや疑心暗鬼が横行し、外部にあっても指値に振り回される。今、増加傾向にあっても工程にずれを起因とする製品置き場の確保、短納期対応での残業・休日出勤の増加など課題は尽きない。景気の波に翻弄され、その時々課題が次々と降りかかってくる。

われわれはそのような業界で仕事をしている。目の前の事象に一喜一憂するのではなく、企業体質を強化して将来的な戦略を打ち立てる必要がある。これまでの経験を活かして、将来のありべき姿に結びつける努力が何よりも肝要である。それも一人で考えるのではなく、皆で知恵を出し合う。そのため組合があり、協会が存在する。積極的に活用して、将来に向かって明るい業界にしていこう。今年、その絶好の年としたい。(叶産業会長)

## 「迷いネコ」



副理事長  
技術委員長

吉岡 晋吾

数年前からか工場の敷地内に二匹の野良猫が住み着いている。

一匹は二年ほど前に工場の事務所の床下で生まれて親に育児放棄されたところを従業員が見つめて餌をあげているうちに住み着いたトラ猫で名前はとら、性別は雄である。

もう一匹はとらの餌を盗みに来ていた白と黒の三毛猫で近所の家で飼われていたのか初めのころは、首輪をしていたがそのうち首輪が無くなって、ずっと工場内にいるようになった、名前はちび、性別は雌である。どうも飼い主に捨てられたようだ。

さらにもう一匹、その二匹の餌を盗みに来ていた猫がいたが病気だったのか、段々痩せてきてある日突然姿を消してしまったようだ。最後まで人に懐かず近寄るとシャーシャーと言って威嚇をしていたので名前をシャーと名づけていた。

多分どこかで死んでしまったようだ。

毎朝、従業員が工場に来ると門の前で二匹並んで出迎えてくれて、餌をもらうとどこかにいって遊んでいるのかお昼になるとまたどこからともなく帰ってきて、また、夕方餌をもらいに帰ってくる。

暖かい日には休憩所のテーブルやいすの上で日向ぼっこをしたり寒くなると車の下でじっとしてたり夏の暑い日には風通しのいい場所で昼寝をしている。

野生の本能なのか自然とすごしやすい場所で生活をしているようで猫たちにとっても今の場所が安全で過ごしやすい場所になっていて、従業員たちもその猫たちに癒されているのである。

工場内の設備投資や人材雇用及び育成などの作業環境の充実も必要ですが、このような心のケアも大切であると思います。(吉岡工業社長)

## 「20年を振り返る」



理事  
Mグレード部会長  
谷村 忠行

平成5年に大学を卒業して、ゼネコンに入社し5年間お世話に。その後、弊社に入社して早20年になった。いまだにゼネコンのユニフォームを着て真っ黒になって、現場管理していた頃の夢をみる。それだけ、厳しく熱い5年間だった。

九州支店に3年、東京支店文化服装学園200億円の現場に2年。(生コンと掃除担当)資格も取らせて頂き、1回目の結婚もした。

弊社に入社したのは平成10年、船橋工場での現場管理勤務。いきなり5-6現場担当した。1年間現場担当者として、職人と現場廻りをした。

目が焼けて、涙が止まらない日も何回かあった。兄弟で排水ピットのグレーチング敷きをしたのも思い出す。その頃は毎日がとても新鮮で、充実していた。

親父に何も聞かされず、現場に行けと言われ現場に着いたら、現場所長が机を叩き、いきなり怒鳴られた。何で怒られているか理由もわからず。結局、親父の肩代わり。会社に帰ると、怒られるのも仕事だと言われ釈然としなかったこともあった。

2年目には東京の本社工場勤務になり、主に営業がメインになった。仕事がなかったからだ。

大学の先輩や元職場のゼネコンは勿論、会社の近くの現場を良く飛び込んだものだ。有難いことに、いまだにその頃の現場所長とお付き合いもある。

親から紹介されたお客様は皆無だが、根の生えた会社を先代方が築きあげて頂いたことで仕事を受注できたことには感謝している。時が経つにつれ、100坪しかない墨田区の工場で1社1万の手摺をいつまで造るのかと、よく叔父と喧嘩した。

生産性のある工場へ転機と希望を考えるようになる。それが後に、船橋工場のヤード増設と1次加工ラインの設備投資に繋がる。

30台半ばで始めたゴルフ。最初はお客様にご迷惑かけない程度のつもりが、ポテンシャルの高さにより、すぐにHD7。最近は仕事が忙しくHD10まで下がった。それは仕事命と2回目結婚のお蔭としておこう。

2020年まで3年間は沢山仕事もあ

りそうだが、その後の 10 年を睨んで、日々精進していきたい。

地元の高校生の入社も増え、新入社員のここ 5 年離職率 0。素晴らしい。新役員たちのお蔭で、業績も UP し、会社も若返り、やる気のある、本気の社員が沢山いることが谷村ブランドとなっている。

ここ数年、決算賞与も出し続けている。

人生の折り返し地点。残り半生を穏やかにそして食欲に楽しむことにしよう。(谷村製作所会長)

## 「味噌汁のお椀」



理事  
青年経営者委員会幹事長  
松田 一朗

皆さんは食事の時「右側にある味噌汁のお椀」が邪魔だなと思ったことはないでしょうか？昔から私はこれが嫌で仕方がなく、お盆が運ばれてくると真っ先に味噌汁とおかずの位置を入れ替えて食べていました。

左手前がご飯茶碗、中央におかず、右手前が汁椀。この配置 (A) は和食のお作法で決まっているらしく、どんな定食屋さんでも必ずこの並びで出てきます。しかし右手で箸を持ち、通常中央奥にあるおかずなどに手を伸ばす時、右手前に高さのある汁椀をかかわす必要があり、うっかりすると袖や肘に引っかかりこぼしてしまいます。一方、ご飯茶碗は上げ下げする回数も多く、左手前にあるのはとても合理的です。

和食では箸を立てたり寝かせたり右手を駆使します。魚の骨と身を分けたら、小さいお漬物をそっと掬ったり、右手は大忙しです。同じ箸でも中華料理ではそんなことはしません。先の太

い箸ではそもそも細かい作業は無理です。先の細い箸でいろいろな作業を行う和食では、おかずのお皿は右側 (B) にあるのが合理的ではないでしょうか。

そもそもどうしてこのような配膳法になったのでしょうか？ネットで調べてみたところ以下のような説があります。

1、ご飯とお味噌汁の配置は陰陽を表している。

2、天皇家の食卓が南向きでご飯が東に位置するのが縁起が良いとされている。

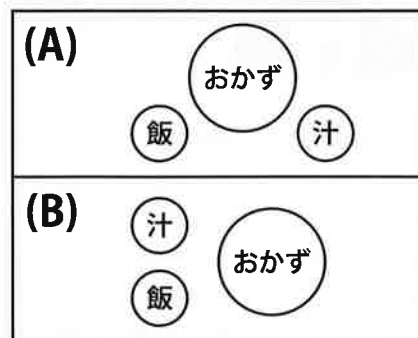
3、和室の生活では床の上の低いお膳に並べるために、手前に汁椀があっても邪魔にならずむしろ便利だった。

どれが正解か、決定的な証拠は見つけられなかったのですが、私は 3 の「古の生活様式」説がしっくりきました。

長らく日本人は床の上にあぐらをかいて低い御膳の上にお椀や皿を並べて食事をしてきました。旅館の大広間で食事を摂るようなイメージです。このような姿勢だと口からかなり低い位置にお椀が並び、右肘が食器にかからなくなる。

上げ下げの多いご飯茶碗が左手前、汁椀が右手前と自然に決まっていたのではないのでしょうか。古の生活様式が椅子とテーブルで食事をするようになった現代でもお作法として生き残っている・・・そう考えると今まで不思議で仕方なかったモヤモヤがようやくスッキリと晴れました。

(松田鋼業社長)



図：食事の配置

## 「国のふところ事情」



理事  
坂爪 幸男

2018 年度予算案が 12 月下旬に決まり、一般会計の総額は約 97 兆 7100 億円だそうです。

この金額は 6 年連続で過去最大を更新している。

国が豊かになり、国でしかできないことのサービスが向上することは喜ばしいことだと思います。

歳入面ではバブル期以来の高水準で 59 兆 790 億円 (すごい金額)。

そして新たな借金は新規国債の発行を 8 年連続で減少させているとのこと (税収が上がり景気がいいときでさえ借金はなくせないのですね)。

歳出の方を覗くと高齢化に伴い社会保障費が 1.5% 上昇、はたまた北朝鮮情勢に鑑み、ミサイル防衛等の強化で 1.3% 増 (大変迷惑なことです)。

しかしながら一国の財政状況を会社に置き換えてしばし考えてみると・・・国の借金は 17 年度末で約 1087 兆円 (この金額は見込み)。これに約 21 兆円増え 1108 兆円になるらしい、これは国民一人当たり換算すると約 870 万円程度になるという (もしかして自己破産?)。

また 10 人程度の会社になると約 8700 万程度の負債を抱え込む状況、財務基盤のしっかりしている会社なら問題がない!・・・?いやいや、厳しい状況と言わざるを得ないと思う。

日本がつぶれるとは思えない (むしろ思いたくない、望みを込めて)。どんなに厳しくとも税金を巻き上げればよいことだからだ。でも会社の場合は苦しいからといって助けてはくれない。国の歳入、歳出にしてもしっかり

と考えるときにきているのではないで  
しょうか。(坂爪建鉄工業社長)

## 「南の島の思い出」



前理事

柳本 幸治

羽田飛行場より沖縄で乗り継ぎ、石垣島に到着。都とは台風並みの風雨で、明日からの天候が心配。

朝起きると曇りで風はなく、島めぐりに行くことにした。石垣港離島ターミナルより船に乗り、西表島で乗り換え、仲間川マングローブクルーズに行く。ここは日本最大規模のマングローブであると聞く。亜熱帯であることを感じさせてくれたクルーズであった。

次はバスで 20 分移動して、水牛車で由布島へ浅瀬の海をのんびりと渡る。島には亜熱帯植物園や蝶々園などがあり、見学の後、再び水牛車で西表島に戻る。次は竹富島へ船で移動、島に着くと再び水牛車に乗り込み赤瓦の集落をめぐるながら、ガイドの島の説明と三味線による民謡を聞きながらブーゲンビリアの花咲く道をのんびりと走る。島時間を堪能できた 1 日でした。

翌朝、自転車で川平湾に向かい途中にある石垣島鍾乳洞を見学。この鍾乳洞は 20 万年もの時が作り上げたサン

ゴ礁により美しい鍾乳洞が生まれたとの説明を聞き感動した。

目的地は遠い。途中にマングローブの川を 2 カ所渡り、峠を越えてようやく到着。昼食にした食後、ミシュラン・グリーン・ガイドで最高ランクの三つ星を獲得したという川平湾。

今日は晴れて白砂に映える澄んだブルーの海を見ながらグラスボードに乗り、海底のサンゴや色とりどりの魚たちをみていると童話の内の竜宮城にいるような錯覚さえ覚えた。

(富士工業専務)

## 工場移転からの新しい取り組み



理事

小室 節夫

新工場へ移転してから二年半、それまで R グレードで仕事をしてきたが、新工場から M グレードへ昇格した。

社員も増やし、十名ほどではあるが今までと環境も変わり、管理体制の見直しを図った。

○品質管理体制

○生産管理体制

○原価管理体制

この三点について改善を試みた。

○品質管理体制について

・従業員全員が管理者の資格を取得  
管理側はもちろんのこと、工場の従

業員一人一人が高い意識でモノづくりをできるように、全員が鉄骨製作管理技術者一級の資格を取得させた。このことで社員の意識向上と細部までのフォローし合える環境づくりを図った。

・ガルバタグ採用

我が社ではめっき製品も多く、めっき工場へ同時に数物件入れることもある。情報を沢山入れられるガルバタグでの管理にてミスを防ぐよう取り組んだ。

○生産管理体制について

・ネットワークサービスの積極的活用

我が社の平均年齢は 30 代というメリットを活かし、積極的に SNS による社員間の情報共有、タスク管理アプリケーション導入による仕事内容の明確化などを図った。これにより打ち合わせ回数減少、発注忘れなどは減少傾向にある。

○原価管理体制について

・工事番号管理制度導入

我が社の傾向としては 100 トン、500 トンをバンバン叩いていくのではなく、付帯鉄骨や改修工事の依頼が多く、故に物件数がトン数の比率に比べて非常に多い。

そこで工事番号管理制度を作り、すべての発注に対し原価管理をしやすいよう心がけた。

・工場加工賃の定規作り

見積もりの際、トン単価で計れない仕事も多く、そういった場合は溶接メートル数で加工賃を出す工夫をした。溶接量が増えれば一次加工も増

## M グレード部会活動 全国 M のエンドタブ試験

全国 M グレード部会連絡協議会(会長=堀川勝・杉山建設工業専務)は昨年 5 月 14 日、江東区東砂の飯田製作所で第 8 回固形エンドタブ溶接技能者技量検定試験を実施した。会場には東

京、千葉、神奈川、群馬の 4 都県の鉄構組合などから新規・更新合わせて 20 名が受験。同日の実技試験による外観検査では全員が合格となった。同技量試験は 11 月 4 日に千葉県でも実施され計 28 名が受験した。いずれも新規を対象者とした座学と更新を含む実技の 2 部構成で行われた。



え、ピース数も増える。一概には言えないがトン単価で計れない物件に対しては感覚で見積もりをせず、一つの定規を設けることに取り組んだ。これによりある程度複雑な物件を誰が見積もりをしても均一化できるようになった。

今後について

M グレード取得からまだ数年、これから世代交代も含め人材教育、新たな作業効率化のため、日々取り組んでいきたい。(小室鉄建社長)

## 「求人募集」



理事  
森 芳恒

2020年の東京オリンピックまで、仕事量が増えるのはいいが、人材不足に悩む企業が当社のみならず多く存在していることと思います。

おそらく、同業他社の皆様が同じ状況だとは思いますが、近年あらゆる媒体を使って求人募集をしてもわずかな応募しかなく、応募してくる人材の質の低下が著しい状況が続いていま

す。なかでも多くの応募者に共通しているのは土曜日、日曜日休みの完全週休2日制、残業はしたくありません、責任の多い仕事はしたくありませんという人がほとんどで、中には30代40代で家庭もある人がパートで応募してきます。

これでは、人材不足はもちろん、質の低下が否めないと思います。しかし、人気業種は数名の募集に対して数百の応募があり、応募者は口々にやりたい仕事だから、自分のやる気を前面に出し、給料、待遇は多くを求めません。もちろん、入社後にこれらの気持ちに変化していく人は多いのですが、応募者がいない状況では人選することもできず、質の向上などできるわけがありません。やはり、求職者にとって魅力的な業界でなければ応募はありません。そのためには業界、仕事を魅力的に感じさせることが最も必要なことだと私は感じています。この仕事をする、将来自分がどのようになれるのか、仕事の内容をどれだけ具体的かつやってみたいと感じてもらえるのか、求人難に悩むそれぞれの業界がやらなければならないことだと思います。

私自身どのようにしたらアピールできるかわかっていないし手探り状態ですが、少なくとも企業紹介よりも、業界アピールをぜひ皆さんとしていかな

ければならないと考えています。おそらく、花形の人気業種にはなれませんが、では、どうすれば魅力的な仕事だと思ってもらえるのか。今年は考えていきたいと思っています。

(日本鉄構建設工業社長)

## 「18年にやりたいこと」



理事  
角鹿 勝保

昨年、業界は年後半ごろから環境が好転したようで、皆様も目下、お仕事に追われ、多忙の中で年明けを迎えられたと思います。わが社でも建築金物と物件の両方で受注を重ね、2カ月先まで工場は満杯状態となっています。

これまで、仕事は民間が中心でしたが、ここ最近では公共関連工事も出始めているようで、さらに民間でも中小物件が増えていることから、景気回復がようやくわれわれのグレードレベルまで降りてきたのかと感じます。

ただ、この需要増に対し、わが社の社員をはじめ外注業者の人手不足が課題となっており、工事に対して人を集

## 東京鉄構3団体研修旅行

東京製鉄宇都宮工場を見学  
計約20名が参加

当組合と鉄工建設業協同組合(理事長=小室節夫・小室鉄建社長)、東京足立鉄骨工業会(会長=染矢利幸・矢翔社長)の鉄構関連3団体は昨年12月19、20の両日、各団体の理事をはじめ会員ら約20名を集め、「東京鉄構3団体研修旅行」を開催。研修行事の一環として、東京製鉄宇都宮工場を見学

した。

今年は当組合が幹事を務め、初日の19日には日光市の日光東照宮を参拝、今年、平成の大修理を終えた国宝「陽明門」や「眠り猫」をはじめ、本地堂(薬師堂)の「鳴き龍」などを見学し、市内の鬼怒川温泉鬼怒川観光ホテルに宿泊、懇親会を開いた。

翌20日は、東京製鉄宇都宮工場での研修を実施。まず座学で、同社及び宇都宮工場の概要や製造品種、工程、品質の管理体制、環境問題に対する取り

組みなどの説明を受け、一行は原料受入ヤードから、圧延、出荷までの工程を実際に見学した。見学後には活発な質疑応答が行われた。



めきれません。現場に入場する一人親方に対する書類の要求など、厳格さを増していることもあり、まさに頭の痛い問題です。

さて、18年の業界はこうした好調と問題が継続すると思われます。明るい年ですが、同時にわが社のような中小企業では納期が短く細かい工事に追われ、バタバタした一年になりそうです。

個人的には今年には社内の世代交代が大きな課題で、資格をそろえるなどの準備を進めています。業務的にはすでに私が社長業を引き継ぎ、今も一線で働いているため大きく変わらないとは思いますが、やはり一企業の代表となれば自ずから大きく気持ちが切り替わっていくのではないかと覚悟しています。

また、これを機会に、工場内を整理してスペースを広く使えるようにするとともに、効率化を図り、スピードアップしていくことを目標に掲げ、工程を一つひとつ細かく見直し、新しい時代に新しい体制で臨みたいと考えています。

(角鹿鉄工専務)

## 18年の『抱負』述べるにあたって



理事 (代理)

松本 龍丈

改めて『抱負』とはいったい一体全体どんな意味であろうか？希望や決意など前向きに心の内を述べる言葉と想っていたが、なぜ『負』の文字が入っているのか気になって調べてみると『抱負』とは心に抱く思いや志のこととある。

『負』という漢字は元来、人が貝を抱える形から来たらしい。貝殻は太古より貨幣の代わりであったことから

『財』『貨』『資』『寶』等、財産に関係する文字の部首に貝が登場する。『負』という漢字も人が何か大事なものを持ったり、担いだりすることを表しているようだ。因みに『背負う』という言葉には『負』が使われている。『自負』『負託』『負荷』等もその文脈である。そして『抱』という漢字は『包』が胎児をお腹の中に抱えている形を表している。

『抱負』というのは 大事な物事を自分の内に抱えること、更には心の内に抱えた思いを表すこととある。

さて、我が身をおく鉄骨業界においては如何であろうか。何故か『請負』が浮かんできた。

ここでも『負』が登場する。『請負』と書いて(言)われて(青)くなったら(負)と古いジョークもあるが、本来は負けではなく『負う』である。

請けた仕事の全てを負担するという意味であるが……。

今年の抱負 仕事を請けたら責任をもって全てを負担(まっとう)して行こう。

(川岸工業営業部長)

## 「ニューヒーローに期待」



理事 (代理)

村木 晃次

謹んで初春のお慶びを申し上げます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

弊社におきましては昨年、鉄骨加工工場を富津から成田へ移し新たにMグレード取得し再出発致しました。また、今年には福島県相馬市へ工場を新設し東北地区の鋼材販売網をさらに強化致します。皆様のご期待を添うべく精一杯の努力してまいりますので、何卒

一層のご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

さて、海外ではお隣の国、韓国では朴槿恵が弾劾により失脚し、革新系の文在寅が第19代大統領に就任し、アメリカでは第45代ドナルド・トランプが就任するなど日本と親密な国の政権が交代しました。また、北朝鮮では2月13日に金正男氏が殺害されるというニュースが流れ今だに全容は明らかになっていません。また、ミサイル実験も何度も実行され、世界の国々から更に孤立を深めています。

国内の政治面では、10月22日に第48回衆院選が行われ、与党が313議席を獲得し圧勝となりました。

経済面では、長年家電業界を引っ張ってきた東芝や日本郵政の損失計上、そして全産業におけるメーカーの品質問題が取り沙汰されメイド・イン・ジャパンの信頼性を揺るがす問題にまで発展しました。

スポーツ面では、フィギュアスケート業界を引っ張っていた浅田真央選手や女子ゴルフ界を引っ張ってきた宮里藍選手、野球界ではロッテの井口資仁選手など多数の有名人が引退いたしました。しかしその一方、将棋界では29連勝という新記録を作った中学生棋士が誕生し、野球界でも広陵高で甲子園での本塁打記録を打ち破った中村奨成選手や高校通算本塁打記録を111本に塗り替えた清宮幸太郎選手など数々のニューヒーローが誕生し世の脚光を浴びました。

そして2019年。建築全般はとても忙しい年となると思いますが、高齢化からくる人手不足の問題や若手の教育問題、労働条件の改善など様々な問題を解決し、次世代にきちんとバトンを渡し我々の業界にもニューヒーローが誕生することを期待しています。

甚だ簡単ではありますが皆様にとってより良い年になるよう心より祈りまして私からの挨拶とさせていただきます。(アイ・テック)

## 理事役員会報告

### ◆ 1月理事会 ◆

□ 1月18日、於・アルカディア市ヶ谷□  
理事会では全構協関連として「人材育成・教育に関するアンケート調査」のほか、「建築構造用鋼材便覧の配布」などを報告した。また、全国R・Jグレード部会連絡会総会、全国Hグレード協議会総会、東構塾第3講座、全青会関東ブロック研修会など当面の行事日程などを確認した。

さらに、組合活性化対策としての『工場訪問』について審議。3月中旬の実施をメドに東・西2地区の組合員を訪問することを決定。今後、訪問先と日程調整を行うことにした。

また、現場工事従事者の社会保険加入と関連する法定福利費について意見を交換。今年4月以降は社会保険未加入企業、未加入者は現場工事から排除されることを受けて、組合員への勉強会開催の必要性について協議。講師の選定を含め前向きに検討していくことになった。

理事会終了後、同所で組合員、協会の会員、来賓ら関係者約70名を集めて新年賀詞交歓会が行われた。

### ◆ 2月理事会 ◆

□ 2月24日、於・組合会議室□

理事会では全構協関連として「建築構造用鋼材便覧の配布」「青年部会への対応」など、また、関東支部関連では「事務局長会議の開催」「建築鉄骨加工業の意見書提出」などを報告。また、組合活性化対策としての『工場訪問』について協議し、3月14日に西地区、同15日に東地区の組合員を対象とした訪問実施を決めた。

協会会新規加入として瑞穂鋼建（本社・千葉県柏市）の入会を承認。さらに4月6日開催の全国Mグレード部会連絡協議会、3月10日の全国R・J

グレード部会連絡会の、それぞれの総会出席者を確認した。

### ◆ 3月理事会 ◆

□ 3月23日、於・組合会議室□

理事会では正副理事長、地区長らが定期的に組合員の工場を訪問する『工場訪問』の年4回の実施を決め、次年度第1回は4月中旬に西地区の組合員を対象とした訪問実施を決めた。今後、対象工場と日程を調整していく。

さらに、来年度予算の方針を協議。組合員減少などで緊縮予算となり、事業費の効率的な配分を決めた。関連して、東京都内の関連団体（東京足立鉄骨工業会、鉄工建設業協同組合など）の加入促進について協議。準会員制度の創設など負担軽減、情報共有・交流推進、意思確認などの活動を通じて積極的に加入を呼びかけることにした。



### ◆ 4月理事会 ◆

□ 4月20日、於・組合会議室□

理事会では今年度事業計画について審議。なかでも①工場訪問を東・西地区ともに年4回の実施②超音波フェーズドアレイ探傷検査実証実験の実施③JASS6改定等に合わせた組合独自の講習会の開催④R・Jグレード部会の開催——などを承認。5月25日に開催予定の総会議案書に盛り込むことにした。

東京鉄構3団体の研修旅行について審議。担当理事の森芳恒氏（日本鉄構建設工業社長）が、団体研修や要望をまとめて可能な見学候補を示したが、最終結論には至らず、継続審議となった。なお、報告事項で全国鐵構工業協会の鉄骨技術研究開発助成制度の要領

を説明。募集を呼びかけた。

### ◆ 5月理事会 ◆

□ 5月25日、於・アルカディア市ヶ谷□

理事会では今後、協力が各支部会に積極的に参加することを承認したほか、審議事項では、毎年開催している鉄骨製作管理技術者に関する講習会のほか、同2級不合格者を対象とした特別補講の実施を検討し、組合員のニーズがあることから10月ごろに行うことを決めた。また、鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会らとの「東京鉄構3団体研修旅行」については、11月に実施、研修内容などの詳細は8月頃に固めるとした。

このほか、一本木鉄工（杉本豊社長）の退会を承認、同組合の組合員数は49社となった。

### ◆ 6月理事会 ◆

□ 6月22日、於・組合会議室□

冒頭で飯田理事長は、同組合青年経営者委員会（略称＝青経委、幹事長＝松田一朗・松田鋼業社長）が実施した構造設計者との意見交換会「かぜのかい」などを紹介し評価を述べた。

理事会の事業報告では、青経委の松田幹事長は「かぜのかい」の実施状況とともに、次回以降のテーマや「今後はゼネコンや鋼材メーカーを巻き込み、風通しのよい関係を作っていきたい」との方向性を示したほか、東構塾については元日建設の津山巖氏を招き「鉄骨に関するQ&A」をテーマにするとした。

また、事業計画のうち、昨年からのスタートした各地区の企業訪問について審議、7月に東・西両地区の企業を訪問することを決めた。このほか、東京鉄構3団体研修旅行は、11月に自動車工場での研修を予定、数社が候補となっているが、工場見学がいずれも8月から受付を開始するため、申し込みの結果で見学先を決定し、さらに旅行行程の詳細を決定するとした。



## ◆ 7月理事会 ◆

□ 7月 25 日、於・アルカディア市ヶ谷□

理事会では①全構協、関東支部、支部運営委員会②東・西地区の工場訪問③性能評価サポート実施④鉄骨製作管理技術者事前講習会⑤フェーズドアレイ探傷検査実証実験の実施⑥鋼材識別表示統一化⑦各グレード部会⑧青年経営者委員会⑨東構塾——など事業の活動状況を報告。なお、理事会終了後には、協力会メンバーも参加して同所で合同交流会が開催された。

## ◆ 9月理事会 ◆

□ 9月 21 日、於・組合会議室□

理事会では『工場訪問』の7、8月期実施を説明した。訪問先から性能評価関連や営業情報の提供を求める意見があり、飯田理事長は「こうした活動に対する評価も頂いている。工場訪問は大きな成果を得ている」と述べた。

また、鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会との「東京鉄構三団体研修旅行」について11月19、20両日の実施を決定した。研修先は東京製鉄宇都宮工場、日光東照宮などとし、当日のスケジュール、参加費などを報告、参加者を募った。

さらに地震や豪雨など自然災害時の全組合員への連絡網を整備した「緊急連絡体制表」を作成、これを協議した。大災害発生時の事務局の機能障害など想定外の場合は、理事長が直接、東西の地区長に連絡することにした。

## ◆ 10月理事会 ◆

□ 10月 24 日、於・組合会議室□

理事会では正副理事長、地区長らが定期的に組合員を訪れ、意見を組合活動に反映させる『工場訪問』の11月期実施を決め、西地区では同7日に2工場を訪問する。東地区は現在、未定だが年内に訪問日と対象先を決定する。

また、超音波探傷検査（UT）資格試験の更新に関連して、理事役員から事前講習会開催の提案があり、協議したが、継続審議となった。

一方、審議事項では11月19、20両日に実施する鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会との「東京鉄構三団体研修旅行」の参加者を募った。

さらに組合HPでは事務局だよりなどで最新の活動状況などを周知しているが、さらなる充実を図るため、組合員にアンケートの実施を決めた。意見を取り上げて運用の拡充を図って行く。

## ◆ 11月理事会 ◆

□ 11月 16 日、於・組合会議室□

理事会でははじめに、活動状況に関する報告がなされた。このうち総務・広報委員会は、正副理事長と地区長らが組合員企業を定期的に視察して意見交換する「工場訪問」を11月7日に実施したことを報告。今回は西地区の小久保鉄工川越工場（埼玉県川越市）と

ヤマトミ所沢工場（埼玉県所沢市）の2工場を訪れた。

また、現在東地区の工場訪問についても検討中とし、訪問先の候補にアイ・テック、叶産業、コイワの3社を挙げた。現在、これらの組合員企業との間で訪問日の日程調整を進めているが、「繁忙期の最中で年内の実施は難しい」ことから年明けにずれ込む見通し。

理事会ではこのほか、事務局が年1回発行の会報誌「リポート東構協第27号」の制作に向けた準備状況を報告。出席していた理事全員に寄稿文の執筆を改めて求め、12月14日の締切厳守で提出するよう呼びかけた。

## ◆ 12月理事会 ◆

□ 12月 14 日、於・組合会議室□

報告事項として①全構協、関東支部、支部運営委員会②各委員会・部会報告③各地区会報告——などを説明。このなかで東京鉄構3団体活動に関連して、鉄工建設業協同組合が「工場マップ」の作成を検討していることが明らかになった。

一方、審議事項として来年1月開催の賀詞交歓会を協議し、招待者のほか、理事役員の担当分担を決め、当日は理事会やMグレード部会も開催することにした。また、組合広報紙「リポート東構協第27号」に関して理事役員らの原稿提出を求め、来年早々に発行するとした。

## 平成 27 年度通常総会開く

## 吉岡晋吾副理事長が役員表彰受賞

昨年5月25日、千代田区のアルカディア市ヶ谷で、通常総会を開催した。総会ではすべての議案を満場一致で承認。事業計画では従来事業の継続とともに、今年から鉄骨製作管理技術者資格の不合格者を対象にした特別補講を

実施するとした。また、吉岡晋吾副理事長（吉岡工業社長）が役員表彰を受けた。総会後の懇親会では、飯田理事長が「年間鉄骨需要400万トンの時代が必ず来るので、東京のファブは生き残るため立地的なアドバンテージを持って欲しい」と述べたほか、来賓に招かれた全国鉄構工業協会の米森昭夫会長（ヨネモリ会長）が祝辞を述べた。



## 全構協の中でR・Jグレードファブの 存在感を高めよう

事務局長 加藤哲夫

全構協の全加盟(2,197社)中でR・Jグレードファブの占める割合は約3割です(2017年12月現在)。S,H,M,R,J認定工場の中ではMグレードの826社に次いで667社です。R・JグレードはMグレードと同様に全構協組織を支える屋台骨といっても過言でないと思います。

実際、わが国内で製作される鉄骨構造物は件数で見れば中小規模の鉄骨構造が圧倒的に多く、この分野の中心を担っていると言えます。したがってR・Jグレードファブの役割は社会的にも大変に大きいのです。

ところが全構協の組織の運営の中でR・Jグレードファブ構成員の発言力が極端に小さいと言わざるを得ません。全構協執行部の中にはR・Jグレードファブの出身の理事は一人も存在しません。もともと家内工業的規模の企業が多く役員を出せない現状にあることも事実です。しかし組織として構成員の約3割を占めるグレード構成員の意志や意見が反映されにくい仕組みは見直していく必要があります。

私は全国R・Jグレード連絡協議会の事務局として9年ほど組織運営に関わってきました。その中で強く感じたことや考えたことを述べてみたいと思います。

現在、全国R・Jグレード連絡協議会は栃木県、群馬県、東京都、千葉県、神奈川県、山梨県、静岡県、三重県、京都府、大阪府の10県が参加して運営されています。年に4回から5回の役員会や総会、工場見学会等を全国各地で実施、さらに年2回山積み、受注単価等の調査の実施、年4回程度の情報誌「かしめ」の発行等を行うなど精力的に活動しています。

R・Jグレードに限った全国横断的な連絡協議会を組織化した最大の動機

は設計者に対して適正なグレード指定を求めていくことです。平成12年度から建築基準法第68条の26に基づく鉄骨製作工場の大匠認定制度が開始されました。鉄骨製作工場を建築物の規模、使用する鋼材により5つのグレードに区分し、その工場認定のための性能評価は国土交通省大臣が指定した指定性能評価機関が厳格な評価基準に基づいて実施されており、そこで生産された鉄骨の品質は社会的な信頼を得ています。しかし、実際にはそのことが建設業界全体に認知されていない現状にあります。鋼種や規模等本来R・Jグレードで十分に対応可能な物件でも設計図書の特記仕様書には「Mグレード以上の工場」を安易に指定する事例が多い事実があります。実際に以前ある官公庁の物件で学校の渡り廊下の鉄骨加工を「Hグレード工場」指定と笑えない実例がありました。

そこでこの現状を少しでも改善していこうとR・Jグレードの仲間が立ち上がり全国横断的なR・Jグレードの部会の連絡協議会が平成16年に結成されたのです。

平成16年6月に発注者である国土交通省大臣官房営繕部整備課長に対して「適正なR・Jグレード指定についてのお願い」の陳情を行っています。

その後部会に参加している各県の仲間が地元自治体に対して粘り強く要請活動等行って、それまでMグレード以上と特記していた耐震補強の鉄骨フレームの加工をRグレードで可能なように適正なグレード指定を勝ち取った県もあります。

また、「品質管理責任者と管理技術者の兼務」の問題では平成27年に全国R・Jグレード部会は全国Mグレード部会と連名で全構協会長に対して「品質管理者の兼務の猶予処置」について、当分の間、現行通りJ・R・Mグレードの品質管理責任者の兼務を認めるよう要望書を提出しました。この間Mグレードは性能評価の更新時に

兼務解消計画の提出を義務付けられましたがR・Jグレードについて兼務を認められています。

全国R・Jグレード部会は任意団体ですが行政や全構協に対して要請や陳情を行い、自ら要求実現に向けて行動してきました。

しかしこのような弱小ファブの要求に対して全構協は感度が鈍いと言わざるを得ません。

平成23年に大阪で全国R・J部会の総会を開催した折に全構協の幹部のひとりが挨拶の中で「全構協は2,228社(平成23年2月現在)ありますがその多くが零細企業です。構成員のうちR・Jグレードが704社、未認定が472社両方で52.8%になります。全構協の会議の中で話されている中身を見てみると規模の大きな会社の方が地域の代表で来られて話をされているわけです。そうするとR・Jグレードや未認定の会員の声が届かないのです。協会は大手の会社だけではありません。構成員の過半数を占める下位グレードや未認定の声を取り上げなければならぬと思っています」と率直に話されました。これは全国R・Jグレード部会の思いを言い表している言葉です。その後、部会では全構協に対してグレード別の横断的な部会を組織して、とりわけ下位グレードの意見を汲み上げる仕組み構築すべきであると提案しましたが「屋上屋であるからその必要はない」との回答でした。

現状ではR・Jグレードの経営者が全構協の理事となってその役割を担うことは物理的に不可能なことです。その時間も経済的な余裕もないでしょう。

私は年に1度でよいから各県の下位グレードの代表と全構協の執行部と直接話し合いができる場を設けるべきと考えます。「本音はグレードを取得するためにだけに全構協に加盟している」意識を変えていくためにも実現していく必要があります。

## 青年経営者委員会

### 「かぜのかい」活動開始 構造設計者との意見交換会

当組合の青年経営者委員会は、昨年4月7日、組織系建築設計事務所の類設計室の構造設計者との意見交換会を東京都大田区の同社東京事業所で行った。こうした会合の実施は今回が初めて。直接対話する機会が少ない設計者とファブとが交流することで「建築鉄骨の生産環境を改善し、風通しの良いものとしていきたい」（類設計室）との思いに共鳴し、継続実施していく方向で参加を決めた。第1回目となる今回は、参加メンバーの顔合わせを行うキックオフミーティングを兼ねて開かれ、今後取り組む意見交換や交流のテーマを話し合った。



活動のテーマについて検討し、次回のテーマをファブの工場見学に決め、見学先の選定や日程調整を進める。また、相互連絡体制の整備などその他の提案については順次着手していくこととし、同会を3カ月程度に1回の間隔で継続的に実施していくことも併せて確認した。

また、会の名称を「かぜのかい」に決めた。命名に際して「鉄（鉄骨）、や「鋼構造」、活動範囲を限定する言葉を使わず、発足趣旨に沿って幅広く取り組み、参加希望者があれば誰でも気軽に集まり語り合える場にしていく意向。

## 東構塾第6期3回目講習

『鉄骨加工工場業務の注意点』を学ぶ

当組合の青年経営者委員会（が主催する若手経営者・技術者育成プロジェクト、「東構塾」（塾長＝古藤凱生・元那須ストラクチャー工業専務）は昨年2月25日、東京都千代田区の溶接会館で第6期第3回目の講習を行った。

当日は、日本溶接協会主催の「平成25年度技術講習会（技術講習会A）」で古藤塾長と青野弘毅塾長補佐（元那須ストラクチャー工業）が講演するため、同講習会の一部として参加することになった。

講習会では古藤塾長の「鉄骨加工工場業務の注意点」や青野氏の「入熱・パス間温度の管理と施工」、武田照雄氏（武田建築構造設計事務所社長）の「東京都の新構造設計標準図について」などをテーマにした講義が行われた。

## 地区会員名簿

### 東地区 (26 社) 地区長 (株) 前田製作所 前田 茂昭

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	川岸工業 株式会社	H	10	株式会社 中川鐵工所	M	19	株式会社 コイワ	R
2	叶産業 株式会社	H	11	中央鋼材 株式会社	M	20	株式会社 小久保鐵工	R
3	株式会社 アイ・テック	M	12	株式会社 日伸鐵工建設	M	21	株式会社 長谷川工業	R
4	株式会社 飯田製作所	M	13	中央ビルト工業 株式会社	M	22	株式会社 矢萩鐵工	未
5	株式会社 前田製作所	M	14	鈴木鐵工建設 株式会社	R	23	株式会社 奥村鐵構	未
6	吉岡工業 株式会社	M	15	林鐵工 株式会社	R	24	有限会社 幸栄工業	未
7	株式会社 中込工業所	M	16	有限会社 高市工業	R	25	津覇車両 株式会社	未
8	株式会社 谷村製作所	M	17	株式会社 角鹿鐵工	R	26	株式会社 市川スチールエンジニアリング	未
9	富士工業 株式会社	M	18	三進建鉄 有限会社	R			

### 西地区 (23 社) 地区長 (有) 金谷鐵工所 金谷 義昭

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	株式会社 矢嶋	H	9	井戸鉄建 株式会社	M	17	島崎工業 株式会社	R
2	東京建鉄 株式会社	H	10	株式会社 かしや建設工業	M	18	有限会社 天野鐵工所	R
3	松田鋼業 株式会社	M	11	株式会社 三侑鐵工	M	19	有限会社 山上建設工業	R
4	池田鐵工 株式会社	M	12	有限会社 坂爪建鉄工業	M	20	有限会社 修和鐵工	R
5	日本鉄構建設工業 株式会社	M	13	有限会社 金谷鐵工所	M	21	有限会社 石川鐵工	R
6	小島工業 株式会社	M	14	株式会社 小室鉄建	M	22	株式会社 帝都建工	未
7	株式会社 鎌建工業	M	15	株式会社 ヤマトミ	M	23	有限会社 大橋鐵工所	未
8	井上鐵工 株式会社	M	16	株式会社 酒多鐵工所	R			

東京鉄構工業協同組合協力会員名簿

Table with columns: 役職, 会社名, 〒, 住所, TEL, FAX, E-mail, 代表者担当者, 役職, 業種・取扱商品. Contains 25 entries of member companies and their details.

編集後記

昨年は大手企業の品質に関する不正が相次いで明らかになった年でした。日産自動車の無資格者による完成車検査の問題、スバル自動車でも同様に行われたことが発覚しました。さらに衝撃だったのは神戸製鋼によるアルミニウム・銅製品の検査データの改ざんが長年にわたって行われていたことが明らかになったことです。2年前に東洋ゴムの免振装置に使われて

いる免振ゴムの性能の偽装が発覚し大問題になり社会問題化しました。しかし、この間も日産やスバルは罪の意識も感じず偽装を続けてきたのでしょう。これまで Made in Japan は絶対的な高品質の代名詞でした。しかしこれからは認識を改めなければなりません。

1990年頃、私は建築行政の中で建築構造審査を担当していました。その中で、鋼材のミルシートの改ざんや溶接部の超音波探傷検査の検査データの改ざんを明らかにし追求した経験があります。超音波探傷検査結果報告書の検査箇所が図面では存在しない箇所の検査結果が報

告書に記載されたものや、鋼材では実際にダイヤフラムに使用された鋼材が二枚に割れた状態で、その鋼材の一部を採取してサンプルを取りミルシートのメーカーに送り成分分析を依頼しミルシートの検査結果と不一致を明らかにしたことがあります。

現在の鉄骨加工の業界では5年ごとの公的評価機関の加工工場の性能評価の実施や、溶接品質の自主検査など制度的にこのような問題が起こらないような制度が確立されています。しかし使用する鋼材の品質が信用できないとなるとコトは重大です。